

平成 20 年度 JAXA 学校宇宙連詩への取り組みの報告
実施概要

学校名	印西市立 原山中学校	校長名	友塚信行
学校所在地住所	〒270-1341 千葉県印西市原山一丁目2番地 Http://inzsi.ed.jp/harayama-jhs/		
参加者	2 学年 3 学級 98 名	指導 教諭	印南明美教諭 (国語科)
参加目的	<p>本校では、心豊かな生徒の育成を目指し、その手だての一つとして、『生徒指導の機能を生かした授業指導のあり方』について研究を行ってきた。そのポイントを、自己存在感、共感的人間関係、自己決定力の3点とした。宇宙連詩の編纂に取り組むことで、本研究が一層深まるであろうと考え、実践を試みた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分を見つめ、「14歳の自分」を書き記すことで、今を大切に生きようとする心を育てる。 ・宇宙の中における自分の存在を意識させ、自分を大切に作る気持ちを養う。 ・友だちの詩につなげようとする、前向きな自己決定力を育てる。 ・友だちの考えや言葉を受け止め、言葉を紡いで行くことで、共感的人間関係をつくる。 ・創作と相互評価を繰り返し、協働で一つのものを作り上げる喜びを実感させる。 ・広い視野で物事を考え、その中で言葉を磨くことで、表現力の向上を図る。 ・新指導要領実施に向けての移行を考慮した学習内容に取り組む。(表現力の重視) 		
指導目標	<p>目標1：宇宙という視点から身の回りの物事や自分自身について考えるきっかけを生徒に与える。(白井市プラネタリウムへの協力を要請)</p> <p>目標2：宇宙連詩に向けての詩の書き方を学ばせる。(国語の授業の中で行う。)</p> <p>目標3：生徒ひとりひとりの存在を重視したうえでの協働活動として、宇宙連詩の編纂を促進し、創立20周年記念式典において発表する機会を与える。</p>		

具体的な取り組み内容	
実施段階 実施時期	取組内容
準備段階 4月 5月	<p>国語の詩の授業の発展学習として、一行連詩を試みた。範囲を模造紙一枚に限定し、学級で一編の詩を完成させた。新学期、新しい出会いと出発を意識させるために、テーマを『奇跡の出会い』とした。そこに、広大な宇宙の中で出会った稀少の偶然を意識させた。</p> <p>5月22日。白井市文化センター・プラネタリウムで開催された、「学校・学級宇宙連詩ワークショップ」に参加。宇宙連詩編纂の異議を知り、賛同。その後、JAXA 職員と本校関係者との意見交換会を開催し、参加学年の決定、指導計画の作成と準備を、本校指導教諭が、JAXA の協力を得て進めた。</p>
導入段階 6月～ 10月	<p>連詩の手法を学ばせるために、国語の授業時間の前提学習として練習連詩を試みた。テーマを『14歳の私』とした。このテーマが既に宇宙連詩そのものであるが、行数は生徒の自由とし、今を生きるこの瞬間に目を向けさせ、悠久の時の流れの中で、今を記すことで残すのだということを意識させた。第1詩は国語科の指導教諭が各クラスに異なった詩を提示した。第2詩めから生徒の立候補によってつなげていった。</p> <p>10月6日。白井市文化センター・プラネタリウムの長谷川好世先生を講師としてお招きし、『宇宙人としての地球人』という視点から御講話いただいた。</p>

実施段階	
11月	<p>11月6日。白井市文化センター・プラネタリウムを訪問。（2学年生徒全員および学年職員）学習投影観覧</p> <p>宇宙連詩の手法を学ぶための学習を国語の時間に行う。 （資料：『『連詩』を発見する』大岡 信）</p>
11月～ 2月	<p>宇宙連詩編纂の開始。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本校2学年3学級にて取り組む。3編の連詩を創作した。 ・第4詩と最終詩は全員に創作させ、国語の時間の相互評価によって言葉を選んだり表現に工夫をさせたりして全体で吟味してまとめた。 ・第5詩以降は、意欲的な立候補によってつないでいった。 ・実際の詩作は、夜空を見上げながら家庭にて行わせた。 ・国語の時間の前提学習として取り組んだ。発表させ、前の詩とのつながりや関わりについて確認させた。全体で添削して表現を磨いてゆく学習をした。 ・できた詩は廊下掲示して学年全体で認め合い、意欲を喚起させた。 <p>（以下、生徒への配布プリント） 【宇宙連詩づくりのルール】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 宇宙連詩は、5行詩、3行詩、5行詩、・・・と、5行詩と3行詩の繰り返しから構成します。直前の詩が5行詩(3行詩)であれば、3行詩(5行詩)でつくります。字数の限定はありません。 2. 直前の詩の中から、ある言葉、または、ある1行を引用して、自作の出发点にしてください。引用は、直前の詩の中の言葉、行を、そのまま引用しても良いですし、直前の詩の中の言葉、行のアイデアを踏襲し、別の言葉にしても良いです。 3. 連詩をつくる時は、以下を心がけましょう。 <ul style="list-style-type: none"> * 前の詩からポンと飛ぶこと * 次の人が続けられること（完結しないこと） * 具体的であること（抽象的でないこと） * 必ず、空を見上げてから創作に入りましょう。星空でなくても、朝でも、曇りでも、雨でもかまいません。 4. 第4詩とラストの詩は、クラス全員が書きます。その中から1点を選んで構いませんし、全員で推敲して一つの詩を仕上げてかまいません。 5. 学級で自分の詩を発表するとき、更に良くするために友だちの意見を聞きましょう。参考になることがあれば、詩を推敲してかまいません。

	<p>5. 学級で自分の詩を発表するとき、更に良くするために友だちの意見を聞きましょう。参考になることがあれば、詩を推敲してかまいません。</p>
<p>社会との繋がり</p>	
<p>1 来年度は本校の創立20周年にあたる。平成21年12月12日(土)に開催予定の20周年記念式典において、何らかの形で編纂した連詩を発表する予定である。</p> <p>2 機会があれば、地域の教育研究集会等で本取り組みについて紹介し、その成果を広めて行きたい。</p>	

平成 20 年度 JAXA 学校宇宙連詩への取り組みの報告
指導教諭からの報告

宇宙のかたすみで 宇宙連詩の編纂を終えて

印西市立原山中学校 2 学年国語科教諭 印南 明美

1. 宇宙連詩編纂にむけての具体的取り組み

当たり前のように過ぎてゆく時間、平凡な毎日。普段気にも止めないような小さなできごと。それら事態が「宇宙で生きているということ」なのだという認識の転換が、この宇宙連詩編纂のスタートであり、ゴールなのだということを今年度の取り組みを終えて感じている。

「宇宙に目を向けること」とは、想像にも及ばないような世界と、今間の前にある自分の生活、その両方を見つめることなのだということを、子どもたちに知らせることができた。

連詩を編纂する中で繰り返し語ってきたということもあるが、子どもたちがそのことを実感できたのは、白井市プラネタリウムのご協力によるところが大きい。「星が爆発したから自分が居るのだ」ということを知り、星に対する感謝にも似た気持ちが子どもたちの心の中に生まれたことを、子どもたちの感想から読み取った。

また、自分自身や自分の身の回りのことを書く。そのための表現手段を「詩」とするのだということを知らせた。本校は、国語の授業の前提学習として詩の編纂の時間を確保した。

よって、国語学習の一環として取り組んだ。すなわち、詩を鑑賞する技能、詩の味わい方、そして詩作の方法を指導した。資料の一つとして、大岡 信先生の書き下ろし文章も活用した。

詩の編纂の方法として、一人一詩必ず作らせた。したがって、連詩を完成するために、一人一人の責任は重大であった。結果、98名による3編の連詩ができあがった。完成した詩のすべてを暗唱することは難しい。けれどもこの素晴らし連詩、素直な心と言葉の集まりを忘れたくはない。そこで、できあがった連詩をベースにして楽曲として残す方向を考えている。それに関しては今後の取り組みとなるが、今年12月に開催予定の、本校創立20周年記念式典において、何らかの形で発表できればと計画である。

2. 宇宙連詩作りによって得たこと

編纂を終え、子どもたちの感想やアンケートを集計していて、予想外の好結果に驚いた。連詩をつくることは「楽しかった」と半数以上の生徒が応えている。そして、「ま

たやりたい」という生徒は3分の2以上いた。

自分の気持ちを見つめ直せること、友だちの考えを知ることができることは、子どもたちにとっても予想外の楽しみだったようである。そして、クラスのみならず一つのことを成し遂げる達成感を味わうことができたようである。集団の中の自分の存在も確かめることができた。まさに、「協働」の成せるたまものであると言ってよい。

また、「国語の学習」という視点からも大きな成果があった。

移行期間に入った新指導要領では、どの教科、領域についても、「表現力の重視」がうたわれている。従って、国語の授業における表現力を高めるための指導には、確かな成果が求められている。今回の取り組みによって、詩を書くことや国語の授業そのものが楽しくなったという感想を得ることができた。

本校の指導の重点目標を達成するためのポイント3点。「自己存在感」「共感的人間関係」

「自己決定力」を育てるために、宇宙連詩の編纂は大変効果的であるということがわかった。

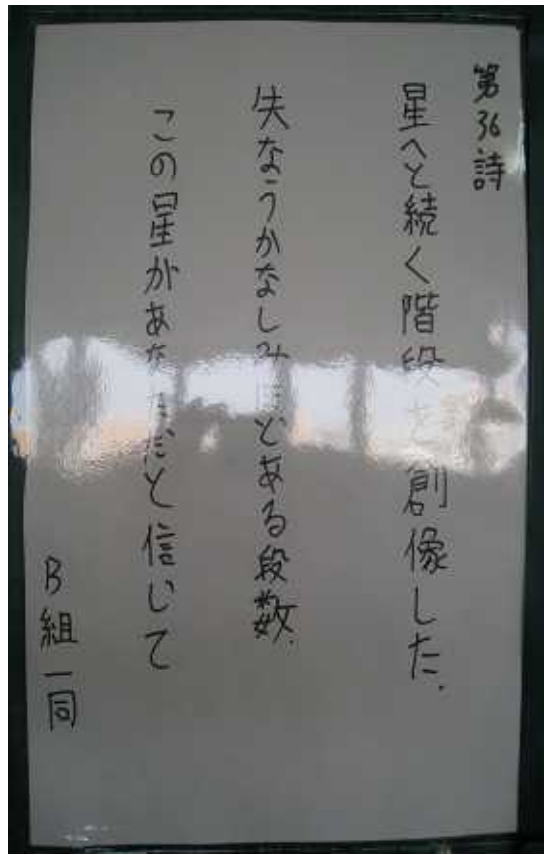
編纂を進めて行く中で、見えないゴールが徐々に一人一人の心の中に現れて、同じ方向に向かって走っているのだという実感がわいてきた。そして、子どもたちのつむいだ言葉の一つ一つが感動となって、詩を読む者の胸を熱くする。その瞬間、宇宙のかたすみで生きている今が、とても愛おしく思える。今回、この取り組みに参加する機会を与えていただいたことに、深く感謝している。

3. 今後の課題

今回は、詩作の時間を家庭学習とした。次の国語の時間までにできあがっていればよいので、表現活動の苦手な生徒にも、個々に支援をすることができた。しかし、今後は、国語の授業の中で詩作の時間を確保したいと考えるので、その手だてについて研究してゆきたい。また、書くことが難しかったと感想を述べている子どもたちの理由は、行数が指定されていることだった。その点をどう解消して行くかが今後の課題である。

実践に関して、学校全体で取り組んで行くことは難しかった。どうしても、担当の国語

科職員一人に寄る部分が大きく、他の職員の手助けを求めることが難しかった。ただ、連詩の発表の際には、全体で取り組まなければならない場面が想定されるので、学校全体に協力を願って、何とか成功させたい。



平成 20 年度 JAXA 学校宇宙連詩への取り組みの報告
参加者からの報告

宇宙連詩作りに参加した方からの、宇宙連詩編纂への感想（宇宙連詩でしか得られない感想を中心に）を、5～10 件程度、1 件 100～200 文字程度で、ご紹介ください。宇宙連詩作りに参加して、特にプラス効果が認められた生徒さんからの感想は是非ご紹介ください。フリーフォーマットで結構です。

感想 1（2 学年女子）

宇宙連詩に取り組んで、世界を広く見ることができた。今までそんなに気にしていなかったことや、考えたこともなかったようなことが、連詩を作ることでたくさんのことを考えるきっかけとなった。うまくまとまらなかったり、言葉が見つからなかったり、大変なこともあったけれど、終わった後にはすごく達成感があったので、やって良かった。

感想 2（2 学年男子）

一つの詩から、それにどんどん関連していく詩がたくさんできてすごいなと思った。そしてその中にみんなの気持ちなどが入っているのでおもしろいなと思った。

感想 3（2 学年女子）

なにげなく住んでいる地球には、人と人との出会いや変わってゆく景色、たくさんの変化があるんだなあと思った。今、関わっている多くの人とも、偶然が重なり合ったから出逢うことができたのだと思う。宇宙の小さな星が人に変わっていったのならば、宇宙にも感謝だなあと思います。

感想 4（2 学年女子）

今まで宇宙について考えたことがなかった。だけど今は宇宙について興味を持った。どうして宇宙は無限なのかとか、地球などが生まれたのか、など。宇宙について知らないことがいっぱいあった。だから私は、これからの人生の中で、その知らないことを一つでも多く知ることができたら、と思った。

感想 5（2 学年女子）

最初に宇宙連詩の話聞いた時は、大規模な物だなあとビックリしたのと同時にちょっと不安がありました。でも、前の人から詩を受け継ぐときは、言葉がすんなり浮かんでいたので自分らしい詩を書くことができました。一人一人の詩では、みんなの個性が出てい

たし、最後の詩を作るときは、みんなで話し合ってみんなで作っている感じがしてとても楽しかったです。連詩が宇宙に行くのが楽しみです。

感想6（2学年女子）

それぞれに書く内容が違って、その人が今一番大切にしているものがわかったような気がする。詩を書くことが少し楽しくなった。みんな、今を精一杯生きていることがわかる。今を失いたくないと強く思う。

感想7（2学年女子）

今、みんながどんなふうにいるのか、よくわかりました。14歳ってというのは、一生に一度しかなくて、今しかできないことがあって、それを詩にすることが、今生きている証拠なんだなって思いました。

JAXA アンケートへのご協力をお願い

下記の質問を参加された児童・生徒に行っていただき、結果を集約頂ければ、嬉しく存じます。口頭でのアンケートでも結構です。

Q1 宇宙連詩に参加する「以前」に、「JAXA」や「きぼう」を知っていましたか？たとえば、「私は、JAXA の〇〇です」とか、「私は、『きぼう』に関係した仕事をしています」と言われたとき、ピンとききましたか？

「はい」と答えた方 30名（89名中）

Q2 宇宙連詩に参加して、JAXA や「きぼう」が、身近に感じられるようになりましたか？

「はい」と答えた方 66名（89名中）

Q3 来年も、みんなで宇宙連詩を作りたいですか？

「はい」と答えた方 63名（89名中）

Q4 その理由は何ですか？（箇条書きで結構です。）

- ・宇宙のことをもっと知りたいと感じたから。（宇宙に興味を持った）8
- ・楽しかったから。41
- ・また、詩を書いてみたいから。
- ・書く力がつくから。2
- ・みんなで一つになれた気がしたから。（クラスがまとまった）10
- ・一つのをみんなでやりとげることが、すごいと思うから。3
- ・心が豊かになるから。
- ・国語の授業で、楽しみが連詩だから。
- ・こんな機会は一生に今しかないと思うから。
- ・もう少し、自分や宇宙のことについて書きたいと思ったから。
- ・もう一度やれば、また新たなことを学ぶことができる気がするから。
- ・友だちの気持ちを知ることができるから。4
- ・自分の気持ちを素直に表すことができるから。2